



愛光NEWS

2020年 9月

2020（令和2）年10月16日発行

（編集）愛光本部総務部

（TEL）043-484-6391

（メール）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

残暑が長引いていると思った矢先、9月の台風12号が秋雨前線を刺激し、秋を導いたように朝夕めっきり涼しくなりました。秋といえば、芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋、と活発に動きたいところですが、コロナ禍によってさまざまな制限を強いられています。

新型コロナの関係では、法人内事業所を利用されている利用者の皆様、ご家族の皆様にはこれまでにならぬご負担をおかけし、心苦しい限りです。これからインフルエンザの季節の到来を迎え、コロナとの同時流行「ツインデミック」が危惧されています。ウイズコロナは長期化する模様で、感染防止策を伴う新しい生活様式の習慣化が求められるようです。

□事業経過など（2020.9.1～）

月/日(曜)	記 事
9/1(火)	8月の東日本平均気温過去最高(2.1度上昇・気象庁)
2(水)	ともいきプロジェクト
3(木)	メンター委員会
8(火)	感染症・衛生委員会（本部第2会議室）
9(水)	サービス責任者会議/みらいプロジェクト(本部第1会議室)
10(木)	広報委員会(本部第2会議室)
11(金)	業務執行理事会（本部役員室）
11(金)	事業継続計画プロジェクト（本部第2会議室）
12(土)	プロ野球、Jリーグ観客受入の上限を50%に引き上げ
14(月)	リスクマネジメント委員会（本部第2会議室）
15(火)	ICTプロジェクト(本部第2会議室)
16(水)	リモートオレンジカフェ（南部包括支援センター・地域福祉センター）
16(水)	第99代内閣総理大臣に菅義偉氏就任（菅内閣発足）
17(木)	メンター情報交換会（本部第1会議室）
18(金)	ボランティア委員会（本部ボランティア室）
20(土)	高齢者人口3,617万人高齢化率28.7%で過去最高(総務省)
21(月)	敬老の日
22(火)	秋分の日
23(水)	施設長会議（本部第1会議室）
23(水)	業務執行理事会（本部役員室）
24(木)	新型コロナによる解雇、雇止め6万人超える（厚労省）
26(土)	理事会(本部第1会議室)
29(火)	コンプライアンス委員会
10/1(木)	Go Toキャンペーン拡大（東京発着旅行等）
7(水)	グループ法人協議会（千視協）



■おもな出来事

□理事会開催

9月26日(土)、2020年度第3回(通算第298回)理事会が、理事10名、監事1名の出席により開催されました。議案は、諸規程の改正についてでした。業務報告では理事長と各業務執行理事より、担当業務の報告がありました。特に新型コロナの関係では、8月に発生した根郷通所センターの感染症の報告、厚労省及び佐倉市からの感染症に関する助成金の報告を行いました。感染者発生についての教訓や今後の対応、長期化に伴う職員のメンタル面での影響を気遣う質問がありました。また(感染を)防ぐことも大事だが、発生したときにどう対応するかが大切で、職員で共有するのが大事ではないかとの意見がありました。今後も新型コロナ感染症について、職員一丸となって取り組んでいければと思います。

□感染症対応ガイドラインをつくりました

新型コロナウイルス感染症は、長期化が予想されています。これまで法人では、法人内事業の体制について世の中の感染状況を考慮しながらその都度対応方針を示していましたが、このたび“新型コロナウイルス対応ガイドライン”を作成しました。レベルを6段階に分け、レベルごとに対応方針を分けることにしました。概略は下記の通り。

現在は、「レベル3警戒」として対応しています。

レベル	判断の目安	行事	会議	ボラ	面会	実習
1 平常	感染が収束し、新規感染もほとんどない	新しい生活様式導入で実施				
2 注意 (感染散発)	市内近隣市町村で、感染が散発的に確認、注意が必要 感染経路がある程度明らかになっている	注意 実施	注意 実施	注意 実施	時間 場所 限定 で可	注意 実施
3 警戒 (感染漸増)	市内近隣市町村で持続的な感染が続いている 感染経路不明が一定以上ある	中止	中止	中止	中止	中止
4 特別警戒 (感染急増)	市内近隣市町村等で新規感染者が急増し、警戒が必要 市内等の福祉施設等で14日以内にクラスター発生					
5 非常事態 (感染爆発)	法人内事業所で感染が発生 市内近隣市町村で市中感染が蔓延している 非常事態宣言が発令された					
6 危険 (医療崩壊)	法人内事業所でクラスター発生 市内近隣市町村で重症患者が増加、医療体制が逼迫					

□DWA T(災害福祉支援チーム)登録

千葉県では千葉県社会福祉協議会と共同事務局を担う、千葉県災害福祉支援ネットワーク協議会が発足されました。DWA Tとは、Disaster(災害) Welfare(福祉) Assistance(支援) Team(チーム)の略称です。昨秋の千葉県襲来の大型台風等、大規模災害時の避難所等における福祉ニーズの把握やスクリーニング、福祉避難所への誘導、日常生活上の支援、各種相談対応、環境整備などを行います。大規模災害が適用され又は適用される可能性がある場合に、非被災圏域の福祉施設職員等が被災圏域の避難所等に派遣されます。千葉県災害福祉支援ネットワーク協議会の構成団体は、県内の関係福祉団体(22団体)が加盟、法人内事業所からも障害事業所を中心に、職員6名をチーム員登録候補者として申請しました。

■月報から

□後援会からの地域支援（福祉相談室）

愛光後援会「愛の灯台基金」では、令和2年7月豪雨災害支援義援金を法人内施設、事業所内に募金箱を設置し協力を仰いだ。集まった義援金計97,625円は、9月10日千葉県共同募金会に届けた。

また、新型コロナへの対応として佐倉市南部地区の小学校5校に対して、お役にたてることがあればと考えお聞きすると、一部の学校ではハンドソープを購入する予算が間に合わず、固形石鹸で手洗いをを行っている。特に低学年では上手に洗えないことが課題とのことだった。さらに生徒数の多い学校は、体温を測り健康管理を促すも、十分に対応できない家庭もあり、検温管理も追いついていない現状にあると同様。同様に中学校の状況をお聞きすると、予算上賄えるとのことだった。そこで、後援会として感染予防に役立てほしいと、ハンドソープ、非接触型の体温計等をそれぞれ助成することにした。9月末すべての備品の準備が整い、各学校に順次配布している。学校では、生徒さんからお礼のお手紙が添えられ、こういった形で後援会の会費が、法人の理念である「地域への貢献」に繋がったことに感慨深いものを感じた。

（福祉相談室相談員 林 拓也）

□利用者健康診断結果（障害事業部健康管理センター）

8月に実施した法人健康診断の結果を受け、嘱託医協力のもと利用者の内科健診を行った。診断結果は、体重増加、高脂血症、高尿酸血症、貧血など内科治療対象者が増加し、内服開始の利用者が増えた。感染対策を踏まえた「新生活様式」への転換や自粛生活を余儀なくされたことによる運動不足、環境変化による精神面のストレスなどが結果として表面化している可能性もある。経過を注視していきたい。模索中であるが、現状の生活に沿うように対応し、心身ともに現状維持を目標にしたい。

（障害事業部健康管理センター主任看護師 佐藤綾子）

□コロナ意見交換会（ルミエール）

スタッフ会議の場で参加している職員すべてにコロナ禍での業務、生活について率直な疑問点や不安なこと等、意見を出してもらった。一番の不安は、実際に施設で感染者が発生した場合自分たちはどうなるのか、どうすればいいのかということであった。その状況にならないとわからないことも多くあり、保健所の指示に従うことになると思われるが、現時点で想定しているゾーニングや勤務体制等、具体的に説明することで少しは職員の不安が軽減したようである。また、参加者全員で、県主催の研修動画を見ながらフェースシールドの組み立てから装着、ガウンテクニックの研修を実施した。最後に「新しい生活様式」への対応についても職員が意見を出し合い、コロナウイルスについて正しく理解し改めて気を引き締めていくことを共有した。

（ルミエール課長 原 宏之）

□普段通りの登所に（根郷通所センター）

皆さまにご心配をおかけした8月に新型コロナウイルスに感染した利用者は、退院後1か月の猶予期間を経て、9月末から元気に登所を始めた。濃厚接触者となっていた利用者も9月初旬から普段通りの登所を始めており、現在は皆そろっての活動にもどった。

（根郷通所センター主任 高梨 和憲）

□合理的配慮点検（リホープ）

コンプライアンス委員会を中心に、施設内の合理的配慮について点検を行っている。担当職員が利用者と施設内を一緒に回りながら、困っていることはないかと聞き取りを行った。「シートなどを置く順番が変わっていることがあり、わからなくなる」「共用の物品の場所が変わっていたり、補充されていなかったりする」という視覚障害のある方にとって基本的な配慮がなされていない事例が報告された。また車いすの利用者からは、「自動販売機に手が届かないので、バリアフリー対応のものに変えてほしい」「ペーパータオルに手が届かない」といった指摘があった。人数の少ない車いす利用者の視点は今まで欠けていた点だと反省している。利用者と一緒に回りながら丁寧に聞き取りする中で、些細なことだからと、利用者自身の中に留めていたことも話しやすかったのではないかと考えている。自動販売機については、すぐにはいかないが、できるところから早急に改善していきたい。（リホープ課長 稲垣 直子）

□本番さながらの夜間想定訓練（山王の家）

10月6日、宿直者1名だけで対応する夜間想定訓練を実施した。当日の宿直者1名で10名の利用者の避難対応を行い、管理者立ち合いで夕食後の19時すぎに実施した。地域の住民の皆様にも事前に知らせておいた。1名の利用者が居室にとどまり避難が数分遅れたが、職員の誘導により無事に避難することができた。他の宿直対象の職員にも随時引き継ぎたい。

（山王の家サービス責任者 高梨 和憲）

□生産体制を考える（佐倉市よもぎの園）

取引先の社長が、他事業所(千葉市内で就労B事業開設予定)の職員を連れてよもぎの園へ見学に来た。取引先からはウエス(汚れ拭き用)生産を受注しており、その作業の進め方を見せたいとのことであった。よもぎの園では利用者が生産したものを、職員が検品をおこなっているが、社長からは「ウエス作りで職員が生産に関わらないでこれだけ大量に生産している事業所は他にはない」とのことであった。

試行錯誤しながら現在の生産体制になっているが「素材ごとに分類しながら進めるのはウエス工場と同じ方法で良く思いついたね」と嬉しい言葉もいただいた。常に現場ではどのような方法で“生産を上げる＝売り上げ増”できるか考えているので方向性は間違っていなかったと現場職員の士気は一段と高まった。

見学に来た職員からも進め方などについて色々と質問があり、担当職員が丁寧に受け答えながら、作業を進めていくときには“利用者の特性を知る”ことがとても重要であると伝えていた。

（佐倉市南部よもぎの園主任 近藤 真一）

□ガウンテクニック研修開催（はちす苑健康管理室）

9月中旬より、職員対象で、コロナ禍でのガウンテクニックを始めた。千葉県主催の研修で行われたガウンテクニック指導を視聴し、実際にその指導に基づいて行った。着用はスムーズであるが、脱衣する時は清潔・不潔を考慮するため技術が必要である。ガウンは、不織布の物と、ビニール製の物2種類で行った。ガウンによっても注意点が変化する部分がある。ガウンを着るような事態にならないことを願うが「備えあれば憂いなし」と言うように、何かあっても対応できるよう、事前に備えることは大切である。

（はちす苑健康管理室主任看護師 阿部美樹子）

□大切なことだけは（学童保育所）

コロナ禍、学童での行事が中止や延期になっており、避難訓練も「蜜」を避ける意味で、大々的に行えない状況である。しかし、万が一の状況に備えておかねばならない。地震や火災の避難、不審者対応に関して、まずは職員間で幾度も検討共有し、子どもたちに「伝えておかねばならない大切なこと」を絞って、数回に分けて、計画的に伝えている。

そんな中、9月24日（木）佐倉市から「台風の影響を考え休校。学童も休所するよう」指示が出た。昨年度の大きな台風（15号、19号）を経験しての判断と思われた。これまでは「台風で休校の時は、学童が7：00から開所する」のがセオリーであったため、ベテランの利用児童は「台風の日、学童で何しよっかなあ〜」と学童に来る気満々であったので、異例の臨時休所に驚いていた。保護者には、予め市からの要請が発信されていたため、大きな混乱はなかったようである。
（学童保育所主任 齋藤 理江）

□「レッツビーザサン」コラボ動画に採用決定！めざせ2000回再生（南部児童センター）

4月から「おうちあそび」の動画配信第13弾「レッツビーザサン」の再生回数が、1800回を超えた。「ロケットくれよん」が作家した曲なのだが、テンポがよく耳に残る。「ロケットくれよん」がコラボ動画を募集していると聞き、電撃アポを取ったところ、児童センターの動画を採用してくれることになった。本部の撮影班のダンスにも注目！法人内のコロナ発生や、種々の著作権の壁に阻まれて、「おうちあそび」の更新ができていない。来月こそは、動画配信を充実させていきたい。
（南部児童センターインストラクター 鈴木 信子）

□リモート研修（総合相談センター）

29日（火）千葉県社会福祉士会主催で研修会が開催された。テーマは「自立支援協議会と基幹相談支援センターを考える」であった。リモートによる研修であったため、アシスト全職員が参加し、県内4地区の実践報告や実践者によるディスカッションを聞くことができた。共通の課題として、ケース対応に追われ、基幹型に求められている地域の資源開発や地域の相談支援事業所との連携に時間が取れていないという声があがっていた。アシストも同様であるが、自分たちの業務を振り返る機会となった。地域によって基幹型に求められていることはそれぞれだと思うが、自分たちができることを、一つずつ形にしていきたい。

（総合相談センター所長 森 由美子）

□すてきな折紙の作品が飾られています（南部地域福祉センター）

久しぶりに折紙の講座が開催された。休館中は講師の方がスティホームで作った作品をセンターに持ってきてくれて、外を通った人からも見えるように飾っていた。今回は季節の花ということで、“ダリア”を作った。一人机一台という距離を取りながら、それでも久々の講座に皆さん笑顔で楽しそうに作品を作っていた。来月の作品を紹介すると、「今教えてよ」などという声も聞かれ、意欲は上々！！折紙の講座は人気が高く、平常時だと定員を上回ることもあるが、今回は少人数であった。用心して不参加の方もおり、コロナとどう共存していくか・・・まだまだ先が長い。

（南部地域福祉センター所長 横川 民夫）

■職員状況（9/30現在）

	人数	前月比
正職員	174	+1
サポート職員	42	
非常勤職員	141	
計	356	+1